



〔東北大学から来て下さった大隅先生とサイエンス・エンジェルのメンバー2名〕

2017年4月15日（土）、奈良女子大学理系女性教育開発共同機構主催「理数教育における魅力の創造 PART 2」シンポジウムが、14時より本学文学部S棟S235教室で開催されました。

今岡学長、小路田副学長（理系女性教育開発共同機構副機構長）の挨拶の後、まず、同機構教授の吉田信也先生が「3月のシンポジウム PART 1 の報告」とのタイトルで約40分間講演されました。

講演は、今年度の3月に奈良女で開催された「理数教育における魅力の創造 PART 1」の内容をコンパクトにまとめたもので、①吉田先生による男女高校生約千数百名に対する「高校生の考え方・感じ方」アンケート調査の結果のまとめ、②吉田先生による「ストーリーのある数学教育」の講演内容のまとめ、③奈良女附属中等教育学校の女性物理学教員である藤野智美先生の「女生徒を意識した物理アプローチ」のまとめ、などでした。吉田先生は講演の中で「学校教育の目的の一つは、よき市民を育てるための教育を行うことだ。女生徒の多くが、物理学や数学を避けていることは残念なことだ。女性との関心が高まるような物理学教材の開発など、女生徒の学意欲を育てるような理数系教育のためにさまざまな工夫をしていく必要がある」と力強く主張されました。

続いて、東北大学大学院医学系研究科教授の大隅典子先生が「なぜ理系に進む女性は少ないのか？」とのタイトルで約1時間講演されました。



まず、大隅先生がご自分の経歴について自己紹介されました。大隅先生は歯科大学を卒業され、歯科の研究として顔面発生を探求されている中で、神経発生分野にシフトし、その後東北大学の医学部に移られ、脳の問題により深くコミットされるようになったとのことでした。ご自身のご両親も研究者で、母親は酵母菌の研究者、父親は鯨科の研究者で、自然と研究者の道を歩まれてきたということでした。

大隅先生はご自身が東北大学医学部教授になった女性第一号であると述べられ、「東北大学は、帝国大学時代に日本で初めて女子学生に門戸を開いたすばらしい大学であるが、今日の東北大学は9割が理系の学問で占められているために、女子学部生の割合が頭打ち

になっている」と説明されました。また「日本は韓国と並んで女性研究者や女性教授の割合が少ないだけでなく、女性の COE も少ないとの資料を示され、学問だけではなく多様性（ダイバーシティ）を大きくすることが社会のためにもよい」と主張されました。そして、「男女の遺伝子ゲノムの違いはわずか 0.3 パーセントにすぎない。生物発生的にヒトのプロトタイプは女性である。なぜ女性研究者、とりわけ理系女性研究者が少ないのか、ロールモデルの影響も強くある。男女すべてが同じでなくともよいが、それぞれの多様性をもっと許容し、その多様性を楽しむような社会が生まれることを願う」というメッセージで締めくくられました。ユーモアに富んだスライドも数多く挟まれた楽しい講演でした。

16 時からは、東北大学サイエンス・エンジェルのメンバーが、写真のたくさん入ったプレゼンを行ってくれました。自分がなぜ理系の研究を目指すようになったのか、現在どのような研究を行っているのか、またサイエンス・エンジェルはどのような活動をしているのか、ということを生き生きと楽しそうに発表してくれました。発表の中で、サイエンス・エンジェルが小中学生の女子のよいロールモデルになっているのと同様に、それとは逆の立場で彼女たちもかつてサイエンス・エンジェルとして活動を行っていた先輩の女性たちをロールモデルにしている、と話してくれました。



〔東北大学サイエンス・エンジェルの発表〕



〔奈良女子大学学生の発表〕

16 時 25 分からは、奈良女子大学の西村さん（B1）と藤巻さん（B4）が、自分たちがなぜ理系に進んだのかについて発表してくれました。2人は本機構主催のアメリカ学生研修旅行 SEASoN に参加し、この 3 月に 10 日間アメリカへ研修旅行に行った学生です。シリコンバレーやスタンフォード大学を訪問し、自分の将来設計に対する考えが大きく変わったと話してくれました。

16 時 45 分頃から 17 時 30 分頃まで、フロアーとの質疑などの意見交換が行われました。奈良女子大学附属中等教育学校から参加してくれた高校 3 年生の女子学生 2 人が有意義なコメントや感想を述べたことがとりわけ印象的でした。



〔ディスカッション中の会場。フロアーの皆さんからも熱心な質疑がありました〕